

自治会の活動紹介

町屋自治会の生涯学習について

自治会長 佐藤 光弘

生涯学習だより

問 生涯学習推進課 生涯学習係
☎(83)7021

町屋自治会は、加入世帯が500世帯に迫る大きな自治会で、今も新興住宅の建築が進む地域です。

さて、町屋自治会の「生涯学習」ですが、8月に「夏祭り」を開催し、子どもたちはゲームなどを楽しみ、大人たちは飲食で舌鼓を打ちながら昔話に花を咲かせ、祭りの最後に行った抽選会では全員が結果に一喜一憂していました。

また、10月にはコロナ禍などで中止をしていた、「小運動会」を町立体育館で復活開催する予定です。この運動会は、体と心の健康増進を目的に、幼児から高齢者までが参加出来る種目を準備し、家族連れで楽しむ交流会です。



12月には、地域集会所とその周辺にイルミネーションを点灯させる「キラキラ町屋」を行います。冬の夜空に映える輝きは、地域住民の来年への期待を膨らませ、心の癒しにもなっています。

このようなイベントは、役員のみでは実行出来ず、多くのボランティアの方に支えていただき実現しています。さらに、自治会を支援する「ふれあいの会」は、高齢者が中心ですが音楽会やゲーム大会、木の実のクリスマスツリー作りなど、おしゃべりしながら楽しい時間を過ごしています。

今後、ボランティアの方と一体となり生涯学習を通じて「住んで良かったと思う地域づくり」を行っていきます。



松田 文化財探訪

My 二宮尊徳翁小伝 その6

文化財保護委員 草門 隆

尊徳翁の教え

「12の重要キーワード」(2)

前回のキーワードは、奥深いので、補足させていただきます。

◎「翁の四綱領」とは「至誠・勤勞・分度・推讓」で「勤勞を主とし、分度を体とし、推讓をもつて用となす」と訳し「推讓」(自・他に譲る)精神や実践を強く訴えています。

江戸時代は、公助(税制度など)や再分配制度がないために、村の再建・難民救済には、相互扶助精神の「推讓」が不可欠で、そのための「分度」と併せこの「推讓」が「報徳実践の道」と言われます。

◎「尊に益なく、讓に益あり」は、翁は世の中を治めるには、『藩主の仁政・富裕者の推讓・民の勤勞』が必要と説き、神教・儒教・仏教の考えを合わせ翁なりの思想を構築しています。「国の盛衰安疑は讓奪にある」とも言います。

⑥「積小為大」(塵も積もれば...)「小さいことをコツコツと...」は、有名ですが、翁が幼少の頃の艱難辛苦(捨苗や菜種の話など)から生まれた思想です。

「小さなことや、易しいことも大事にすれば、大きなこととや難しいことを成し遂げられる」と言うことです。日頃からの観察眼・想像力を養い、小さな成功体験を大事にするという意味合いもあります。小さな信用や勉学の積み重ねも同じと言われますが「言うは易し行は難し」で凡人の筆者は今に至ります。

次回、翁独特な⑦天道人道(論)です。



一元紙幣
昭和21年～33年発行